

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 (森林管理プロジェクト用)

プロジェクトの名称：川場村グリーンバリュープログラム（GVP）に
よる豊かな森づくり

プロジェクト 実施者名	川場村
----------------	-----

妥当性確認申請日 2016年 1月 19日

プロジェクト登録申請日 2016年 2月 22日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がいる場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) カワバムラ
	川場村
住所	群馬県利根郡川場村大字谷地 2390-2

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ) トネヌマタシンリンクミアイ
	利根沼田森林組合
住所	群馬県利根郡川場村大字谷地 2054-4

※1 複数のプロジェクト実施者が参加する場合には、欄をコピーしてそれぞれのプロジェクト実施者の情報を記載すること。

1.3 J-クレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ) カワバムラ
	川場村
住所	群馬県利根郡川場村大字谷地 2390-2

※1 J-クレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2～4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

2 プロジェクト概要

2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	川場村グリーンバリュープログラム（GVP）による豊かな森づくり	
目的	川場村の村有林で間伐を実施し、CO2 吸収量を増大させる。	
概要	川場村、東京農業大学、清水建設の産学官連携で取り組む川場村グリーンバリュープログラム（GVP）の一環のプロジェクトである。GVPにより森林資源の有効活用を促す具体的な取組みを進めることで間伐が行われ、温室効果ガスの吸収につなげる。この取組みを通じて、村の重要な資産である森林を持続的に経営してゆく。	
プロジェクト実施場所	市町村	群馬県川場村
	場所 ※1	川場村有林（笹平団地）

※1 「○林班～○林班」、「○○事業区」等と記載するとともに、森林計画図等の図面を添付する。

2.2 プロジェクト実施前後の状況

<p>（プロジェクト実施前のプロジェクト実施地の状況※1）：</p> <p>森林の概況（川場村有林笹平団地）</p> <p>別紙参照 森林経営計画書「森林資源構成表」</p> <p>なお、森林経営計画書中に出てくる「マツ」は全て「アカマツ」を意味する。</p> <p>間伐対象地の概況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>面積 (ha)</th> <th>蓄積 (m³)</th> <th></th> <th>面積 (ha)</th> <th>蓄積 (m³)</th> <th></th> <th>面積 (ha)</th> <th>蓄積 (m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>10.96</td> <td>7442.3</td> <td>アカマツ</td> <td>19.65</td> <td>7829.4</td> <td>カラマツ</td> <td>12.75</td> <td>5674.2</td> </tr> <tr> <td>4 齢級</td> <td>0.17</td> <td>42.6</td> <td>7 齢級</td> <td>0.54</td> <td>171.8</td> <td>7 齢級</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 齢級</td> <td>3.00</td> <td>1879.5</td> <td>10 齢級</td> <td>4.5</td> <td>1758.2</td> <td>10 齢級</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 齢級</td> <td>3.00</td> <td>2028.3</td> <td>11 齢級</td> <td>14.61</td> <td>5900</td> <td>11 齢級</td> <td>0.64</td> <td>280.4</td> </tr> <tr> <td>12 齢級</td> <td>3.78</td> <td>2723.9</td> <td>12 齢級</td> <td>-</td> <td></td> <td>12 齢級</td> <td>12.11</td> <td>5393.8</td> </tr> <tr> <td>13 齢級</td> <td>1.01</td> <td>768.1</td> <td>13 齢級</td> <td>-</td> <td></td> <td>13 齢級</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 森林の現況、森林タイプ（人工林・天然林等）別、樹種別、齢級別の面積と蓄積等について情報を表などにまとめ説明すること。また、間伐対象林についても同様の表と文章を作成すること。なお、説明には数値を用い、具体的に説明すること。また、林分が多数にわたる場合には、総括表を記載したうえで、森林簿、森林施業計画書又は森林経営計画書から上記情報が含まれている部分の写しを添付しても良い。</p> <p>（プロジェクト実施後のプロジェクト実施地の状況 ※2）：</p> <p>持続的かつ安定的な木材生産を行うために、人工林については適正な間伐を繰り返し行い、間伐を主体として適正な森林管理に努めるとともに、森林施業の効率的な実施を確保するために計画的な路網整備を行い、主伐後は再生林により育成林として確実に維持し資源の充実を図る。</p> <p>群馬県の地域森林計画書（利根川上流森林計画区）をもとに、スギ、アカマツ、カラマツの間伐は、いずれも5～7年間隔で定性間伐を基本とし、本数間伐率を30%としている。主伐実施期は</p>										面積 (ha)	蓄積 (m ³)		面積 (ha)	蓄積 (m ³)		面積 (ha)	蓄積 (m ³)	スギ	10.96	7442.3	アカマツ	19.65	7829.4	カラマツ	12.75	5674.2	4 齢級	0.17	42.6	7 齢級	0.54	171.8	7 齢級	-		10 齢級	3.00	1879.5	10 齢級	4.5	1758.2	10 齢級	-		11 齢級	3.00	2028.3	11 齢級	14.61	5900	11 齢級	0.64	280.4	12 齢級	3.78	2723.9	12 齢級	-		12 齢級	12.11	5393.8	13 齢級	1.01	768.1	13 齢級	-		13 齢級	-	
	面積 (ha)	蓄積 (m ³)		面積 (ha)	蓄積 (m ³)		面積 (ha)	蓄積 (m ³)																																																															
スギ	10.96	7442.3	アカマツ	19.65	7829.4	カラマツ	12.75	5674.2																																																															
4 齢級	0.17	42.6	7 齢級	0.54	171.8	7 齢級	-																																																																
10 齢級	3.00	1879.5	10 齢級	4.5	1758.2	10 齢級	-																																																																
11 齢級	3.00	2028.3	11 齢級	14.61	5900	11 齢級	0.64	280.4																																																															
12 齢級	3.78	2723.9	12 齢級	-		12 齢級	12.11	5393.8																																																															
13 齢級	1.01	768.1	13 齢級	-		13 齢級	-																																																																

長伐期の 80 年としている。

なお、モニタリングエリアの設定については、基本的に樹種・林齢ごとに設定した。植栽時の苗の関係で、一部樹種の林境が不明瞭な場合があり、複数の小班を一括して測量している箇所があるが、その場合には保守的な樹種・林齢でモニタリングエリアを設定している。

※2 対象林において、森林経営計画又は森林施業計画に基づいた施業の方針について、主伐実施時期、間伐実施間隔、植栽樹種、定量／定性間伐の区分、間伐率等の内容を、数値を用いて具体的に説明すること。また、林分が多数にわたる場合には、総括表を記載したうえで、森林簿、森林施業計画書又は森林経営計画書から上記情報が含まれている部分の写しを添付しても良い。

2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 25 年 4 月以降に実施されたプロジェクトである <input type="checkbox"/> 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月に実施されたプロジェクトであり、オフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録を受けていない ※2 <input type="checkbox"/> 平成 20 年 4 月～平成 25 年 3 月に実施されたプロジェクトであり、オフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録を受けている ※3
追加性	<input checked="" type="checkbox"/> 追加性を有している ※4

※1 「プロジェクトの実施日」とは、森林経営計画又は森林施業計画に基づく適切な施業又は森林の保護（森林の巡視等を含む）を実施した日を指す。

※2 【FO-002（植林活動）について】平成 25 年度中に限り J-クレジット制度のプロジェクトとして登録申請を行うことができる。

※3 【FO-002（植林活動）について】オフセット・クレジット（J-VER）制度から移行したプロジェクトについては、「平成 25 年 4 月以降に実施されたもの」という要件を満たしている必要はない。

※4 【FO-001（森林経営活動）について】追加性評価に関する詳細情報は別紙（A.1）に示すこと。

3 方法論

3.1 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	FO-001 ver.2.1
	方法論名称	森林経営活動

3.2 方法論の適用条件への適合

条件 1	■ 適合している	本プロジェクト計画地は森林法第 5 条に定められる森林である。
条件 2 ※1	■ 適合している	本プロジェクトは森林経営計画に沿って実施され、森林経営計画単位で実施される。
条件 3 ※2	■ 適合している	現在認定されているプロジェクト実施地の伐採計画は主伐を含まないため、吸収見込み量の累計は正である。
条件 4	■ 適合している	森林経営計画において、平成 28 年度、29 年度に間伐が計画されている。
条件 5	■ 適合している	森林経営計画において、プロジェクト実施地の土地転用は計画されていない。

※1 【FO-001（森林経営活動）について】算定対象とする施業が含まれる全ての森林経営計画又は森林施業計画の認定番号及びその認定期間を記載すること。

※2 【FO-002（植林活動）について】算定対象とする施業が含まれる全ての森林経営計画又は森林施業計画の認定番号及びその認定期間を記載すること。計画が認定されていない場合は、モニタリング報告書に記載すること。

3.3 モニタリング・算定方法

プロジェクト実施後吸収量		
主要／付随的	吸収活動	温室効果ガスの種類
主要	地上部バイオマス蓄積	CO2
主要	地下部バイオマス蓄積	CO2

プロジェクト実施後排出量		
主要／付随的	排出活動	温室効果ガスの種類
主要		CO2
主要		CO2

4 吸収計画

認証対象 期間 ※1	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 33 年 3 月 31 日 (6 年 ヶ月)				
吸収計画 ※2	年度	ベースライン 吸収量	プロジェクト 実施後吸収量	プロジェクト 実施後排出量	吸収量
	平成 25 年度	0 t-CO2	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	平成 26 年度	0 t-CO2	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	平成 27 年度	0 t-CO2	117.1 t-CO2	t-CO2	117 t-CO2
	平成 28 年度	0 t-CO2	114.1 t-CO2	t-CO2	114 t-CO2
	平成 29 年度	0 t-CO2	112.1 t-CO2	t-CO2	112 t-CO2
	平成 30 年度	0 t-CO2	103.4 t-CO2	t-CO2	103 t-CO2
	平成 31 年度	0 t-CO2	93.1 t-CO2	t-CO2	93 t-CO2
	平成 32 年度	0 t-CO2	93.1 t-CO2	t-CO2	93 t-CO2
	合計	0 t-CO2	632.9 t-CO2	t-CO2	632 t-CO2

※1 認証対象期間は、プロジェクト開始日の含まれる年度の開始日から平成 33 年 3 月 31 日までの間で設定すること。

※2 吸収量の算定方法については、別紙 A.2 に記載すること。

5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	利根沼田森林組合 総務課長
モニタリング担当者 ※1	利根沼田森林組合 業務係

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	平成 28 年度にプロジェクト実施地の面積を測量し、利根沼田森林組合においてデータを保管する。 地位特定に関するプロット調査結果を保管する。 毎年の吸収量を累計表に記録する。 施業の実施届等を保管する。
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後 <u>10</u> 年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。その際、森林管理のための巡視を行う体制を明記すること（森林の巡視とは、一般的に、森林の保全管理及び森林の産物の盗採、林野火災等の森林被害の防止及び発見のために、定期的及び必要に応じ森林において行うもの）。

※2 原則認証対象期間終了後 10 年間とする。

6 特記事項

6.1 吸収量に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

吸収量に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

※1 プロジェクト排出量が増加し、プロジェクト吸収量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	自然災害（暴風による風倒等）や病虫害のリスクが存在する。日頃の巡視により、早期発見に努め、迅速に対応する。 人的ミスによる吸収量の誤りが存在する。人的リスクについては、発見次第ただちに修正する。

6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名：_____)

類似制度での認証予定期間：_____)

登録していない

6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。

6.4 認証対象期間の設定について

認証対象期間の前後の年度に、主伐の実績又は計画はないか。

有 無

有の場合、認証対象期間は、クレジットを過大に発生させる目的で、主伐の時期を意図的に避けて設定していないか。

意図的に避けたものではない

(設定の考え方：_____)

(例) 森林経営計画の計画期間を認証対象期間としている